

蒜山地方の伝統的工芸品“郷原漆器”

郷原漆器の製作用具



指定区分	国登録有形民俗文化財
読みかた	ごうばらしっきのせいさくようぐ
所在地	真庭市蒜山上福田
指定年月日	平成19年3月7日
解説	<p>旧大山往来の宿場であった郷原では江戸時代から主に椀物や木皿といった日用品を中心に、多種多様な漆器が作られていた。栗材を使用した堅牢かつ比較的安価で実用的な漆器であり、主に山陰方面へ出荷された。これらの製作用具は、郷原地区内を中心として収集したもので、下ごしらえ、シブヒキ、下塗り、上塗りなどの各工程で使用されたヘラ、ソクシダイ、トギダイ、ヌリダイなどの用具類が含まれている。</p>
アクセス方法	
公開状況	
設備	
備考	<p>真庭市立川上歴史民俗資料館に保管されています。また、郷原漆器の製作技術は、県の重要無形民俗文化財(民俗技術)に指定されています。</p>

きつずページ



していくぶん (指定区分)	国登録有形民俗文化財
ぶんかざいめい (文化財名)	郷原漆器の製作用具
よみかた	ごうばらしっきのせいさくようぐ
しょざいち (所在地)	真庭市蒜山上福田
していつひ (指定した日)	平成19年3月7日
せつめい	郷原漆器(ごうばらしっき)とは、蒜山(ひるぜん)の郷原(ごうばら)地区(ちく)で、古くからつくられてきた、漆(うるし)ぬりの器(うつわ)などです。おもに、お椀(わん)や木皿(きざら)などを中心に、膳(ぜん)、杓子(しゃくし)などいろいろな日用品が作られていました。それらを作るための用具(ようぐ)が、まとめて大切(たいせつ)に保管(ほかん)されています。